



## 馬耳東風

人生の最終節に入った身として「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」の境地を求めて残された日々を送りたいと思っているのだが、世間は望むほど平安ではない。先般の参議院選挙の投票日、何とも重い気持ちで投票所に入った。思い返してみると最近、気持ちよく投票所に入った記憶がない。高望みをしているつもりはないが、無党派・納税者の一人として、議員には才能、人格など全てにおいて委任できる人物を選びたいと思っている。しかし、どの候補者も選挙用マニュアルを読んでいるのか、美辞麗句ばかり並べており、その裏に利己的な姿勢が見え隠れし、議員として最も必要とされる信頼性が感じられない。今年は2月頃から国会議員の不祥事が相次いだ。政治資金規正法に抵触する問題は日常茶飯事、育休・不倫問題、科学的知識・国語力の欠如など、多くの場面で国会議員としての資質に疑いが持たれた。余りにも多いこれらの不祥事が明るみになる度に、一市民としての常識、倫理観が欠如した者が、どうして議員になれたのか、不思議で仕方ない。

東京都では知事が2代続けて政治資金規正法に関係した不祥事で辞職した。記者会見では違法性はないと繰り返し、返答に窮すると弁護士が調査中であるからと逃げの姿に、余りにも都民・国民を見下した発言として憤りを感じていた。辞職は当然であるが、「知識人」を標榜する者が同じ問題を繰り返す感覚が理解できない。参議院議員時代には「政治と金」の問題を厳しく追及していたようだが、全てが自分の虚像をつくるためだったように思えてくる。選挙時の空念仏には責任を伴わないと考えているのか、当選後、利己主義を行動理念とする者

は政治家ではなく政治屋の名が相応しい。

先の参議院議員選挙では全国投票率が54.7%と低調であったが、有権者の本音は議員に相応しい候補がいなから投票しないということであろう。議場は「高崎山の猿芝居」さながら、拝金主義に踊らされる政治屋を信頼するほど有権者は単純ではないと思われる。世論形成に最も強い影響を及ぼす媒体はマスコミ、特にTVと言われるが、今、TV番組はどこを見ても低俗なバラエティ番組のような、時間空費的な番組ばかりが目につく。その中から議員に選任されるようでは真に日本の将来を託すに値する人物は選任されないのではないかと思えてくる。都知事選挙に21名が立候補した。制度上は有資格者ならば誰でも立候補できるが、選挙を遊びの場に行っているようで税金の無駄遣いである。選挙の度に、「政治は国民のレベルの反映である」と言う格言が頭に浮かぶが、選ばれる方も選ぶ方ももう少し真面目に考えてもらいたいものだ。

英国では国民投票でEU離脱派が約3%の差で勝利し、離脱に向かって動き出したが、首相にはEU残留派のテリーザ・メイ氏が選出された。英国ほど民主主義が成熟した社会であっても、時々国民は熟慮を重ねて投票した訳ではないということだろうか。米国では共和党の大統領候補者としてブッシュ前大統領でさえ擁立に賛成できないという国粋主義的なトランプ氏が選出された。現在、各地で紛争が多発し、世界的にナショナリズムが台頭してきた感があるが、その背景には国民の政治に対する不満の蓄積があるのだろう。「政治が信頼を失うと社会は廃れる」と言われるが、今、我々はまさにその渦中にあるように思われる。

(青)